

学校だより 希望の鐘

ひとつの鐘は、いづれどしかならない



八 戸 市 立 小中野中学校

平成28年7月20日(水)

No.54 文責：校長
工藤聡

「平和の鐘を鳴らす運動」 in 小中野中

昨日は、「民間ユネスコ運動の日」ということで、青森県ユネスコ協会の方々が30名ほど小中野中学校を訪問し、「平和の鐘を鳴らす運動」を行いました。これは、世界の子供たちの平和と非暴力のために、日本ユネスコ協会が2001年に始めたもので、各地において“平和への祈りと願い”を込めて、お寺や教会の鐘を鳴らすというものです。

その「平和の鐘を鳴らす運動」が、どうして小中野中学校で行われることになったかということ、心の教室の横川先生が、青森県ユネスコ協会の理事をしている関係で、小中野中に「希望の鐘」があると紹介していただいたことがきっかけです。以下は、私が当日話そうと思っていた内容です。

本校の「希望の鐘」は今から60年前に、第9回の卒業生が贈ってくれた「平和の鐘」がその2年後に現在の名称となったものです。どういう経緯でそうなったのかはわかりませんが、私が想像するのは、「平和」と「希望」は同じ意味を持つのではないかと思います。そして、同じ意味を持つ、その二つをつなげるものが「夢」なのだと思います。いつの時代にも争い、紛争は起こっていますから、「平和」は人類の永遠の夢であります。また、我々にとっておぼろげな「夢」が「希望」を持つことによって、現実的なものとなってくるからです。剣道部は、市中体夏季大会で46年ぶりの優勝を果たしました。そして、その優勝が、次は東北大会出場という目標に変わっていききました。その目標は果たすことはできませんでしたが、まるで夢物語のような「東北大会」が、希望をもって努力することにより、現実的なものとなっていったのです。

私たちの毎日の生活を振り返ると、自分の思うようにいくこともあれば、うまくいかないこともあります。楽しいことやうれしいこともあれば、辛いことや苦しいこともあります。物事が順調に進んでいるときは、次々と夢が広がり、何をしてもうまくいくような気持ちになり、希望も大きくなっていきます。一方、うまくいかない時は、何をしても失敗ばかりで、気持ちも動揺しまるで「心の平和」が脅かされているようになってしまいます。

私たちは、辛く苦しい時でも、夢を持ち続けることが大切だと思います。それは、あきらめてしまえば、辛さや苦しさが広がるばかりだからです。そんな時こそ、ほんの少しの夢が持てれば解決の方向が見え、小さな夢も少しずつふくらんで、それが希望へと変わっていくはずで、また、家族や先生、友だちに辛さや苦しきことについて相談し、一緒に夢の手掛かりを見つけることもできます。集団生活をする学校は、みんなが支え合うことに価値があります。一人では解決できないことも、みんなの知恵と力を合わせれば、解決の糸口がつかめるはずで、同じように、平和は一人では実現できません。やはり、大勢の人が手を握り、そのために連帯しなければならぬのです。

「バタフライ効果」という言葉があります。「小さな出来事が、やがては地球規模の変動につながる」という意味です。バタフライとは蝶のことですが、蝶の羽ばたきが気流を変化させ、ひいては大きな嵐を起こすという例えからきているのだそうです。人間は、夢がある限り前に進めるのだと思います。一つの小さな夢がだんだん大きくなり、みんなで共有できる大きな夢に育っていきます。私たちにとって、「平和」というと、あまりにも大きくなりすぎて、手の届かないように思えますが、身の回りの小さなことを一つずつしっかりこなしながら、いつでも「夢」や「希望」を持ち続けていくことが、最終的には、いろいろな「平和」につながっていくのではないのでしょうか。

私が話を始めたところで、大粒の雨がいきなり降り出しました。みなさんを木の下や校舎に入れたとたん、小降りになりました。いかにも、私の話は「必要ない」という“天の声”のようでした。それでも、みなさんにとっては校外からのお客様を迎え、その方々からいろいろ評価していただくことも成長のための糧（カテ：ささえとなるもの）となっているのだと思います。ユネスコ協会の方々はみなさんが給食の時に訪れ、会議室で休憩していたのですが、報道部の昼の放送を聞いて、大変褒めていました。みなさんも、平和宣言や「ふるさと」斉唱等、普段なかなかしないことも一生懸命やってくれて、私もうれしかったです。みなさんにとって、これも小さな成長の一歩だと思います。